よろこび

日蓮宗 開聖会
本　山　妙顕寺
長音山　本要寺

『日蓮聖人との対話』十（感応対談）

貫首　齊藤　日軌

（問者）日蓮大聖人様、私の大事な息子次男が二十一才で逝って終いました私は毎日号泣しました。日蓮聖人、私は息子にはもっと生きて青春を味わったり、人生の毀誉褒貶に涙したり、人生それ自体生きることそれ自体を味わって欲しかった。それから私の後に逝って欲しかった。私はあなたの降誕八百年でもあったので彼を生き返らせて欲しいとお願いした。しかし彼は帰って来なかった。そうするうちにあなたが白い衣の袖に彼を包んで連れて行く姿を見ました。それから私は少し落ち着いています。悲しくて悲しくてやりきれないですが、人のために尽くしていきたいとは思っています。しかし、なかなか力が出ません。息子の夭逝はどんな意味があるのでしょう。

（日蓮聖人）あなたの息子は早くして、亡くなったが、自分の修行をやり遂げた。お経も本山ずいぶん立派にあげるようになったではないか。書もあなたよりうまい位のものを書いてあってではないか。私だってとても残念なのだよ。こちらで、ゆっくり休ませさらに成長させたい。いずれそちらの世界で生まれることもあると想う。あなたが悲しいと嘆く以上に私も悲しいんだよ。私のかわいいかわいい弟子でもあるんだよ。

彼はそれなりの魂の器を持っていたんだ。惜しいことである。人の世は、無常である。

しかし魂は永遠に生まれ変わり死にかわりしているんだよ。魂には死は無いのだよ。汝も私の弟子としてあの鎌倉時代にいたではないか。あの子またその時に一緒にいたんだよ。苦楽を共にして、今もいきつづけているのだよ。

（問者）あなた様の心はよく理解できました。私もだいぶ救われました。この去った子供の為にも、妻と長男と一緒に力合わせてお題目を唱え弘めていきたいと思います。また世の子供たちの為にも何か少しずつできることをしていきたいと思います。お釈迦様は諸行無常とおっしゃいました。頭ではずっと私も理解しておりましたが、本当にはまだ理解できていませんでした。父母をなくした時は、感謝とともに送ることができましたが、息子の場合は悲しさ、悔しさ自分の至らなさ後悔に胸がいっぱいです。

どうか大聖人に命を捧げますから、どうぞまた私をお使いください。いつでもどこでも私を遣わせて下さい。南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経

日蓮聖人のお言葉

私の弟子達よ
南無妙法蓮華経と唱えなさい
こちらに来たら私の袖で包んであげよう